

雌阿寒岳の火山活動解説資料（令和4年3月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図1-①～⑥、図2～4、図5-①）

監視カメラによる観測では、96-1火口の噴煙及び中マチネシリ火口の噴気の高さは火口縁上概ね200m以下、赤沼火口及び北西斜面06噴気孔列の噴気の高さは火口縁上100m以下で経過しており、各火口の噴煙・噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図1-⑦～⑧、図6）

火山性地震は主に、ポンマチネシリ火口及び中マチネシリ火口の深さ0～1km付近で発生しました。ポンマチネシリ火口付近では、2020年9月下旬以降、それ以前よりも火山性地震の少ない状態が続いています。

・ポンマチネシリ96-1火口周辺の全磁力の状況（図5-②）

全磁力連続観測では、2020年1月頃からわずかな減少傾向がみられていましたが、2021年6月頃からは概ね横ばいで推移しています。

・地殻変動の状況（図7）

広域のGNSS連続観測で2016年10月頃から観測されていた、雌阿寒岳の北東側に膨張源が推定される地殻変動は、2019年夏頃から停滞しています。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図10mメッシュ（火山標高）』、『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和4年4月分）は令和4年5月12日に発表する予定です。

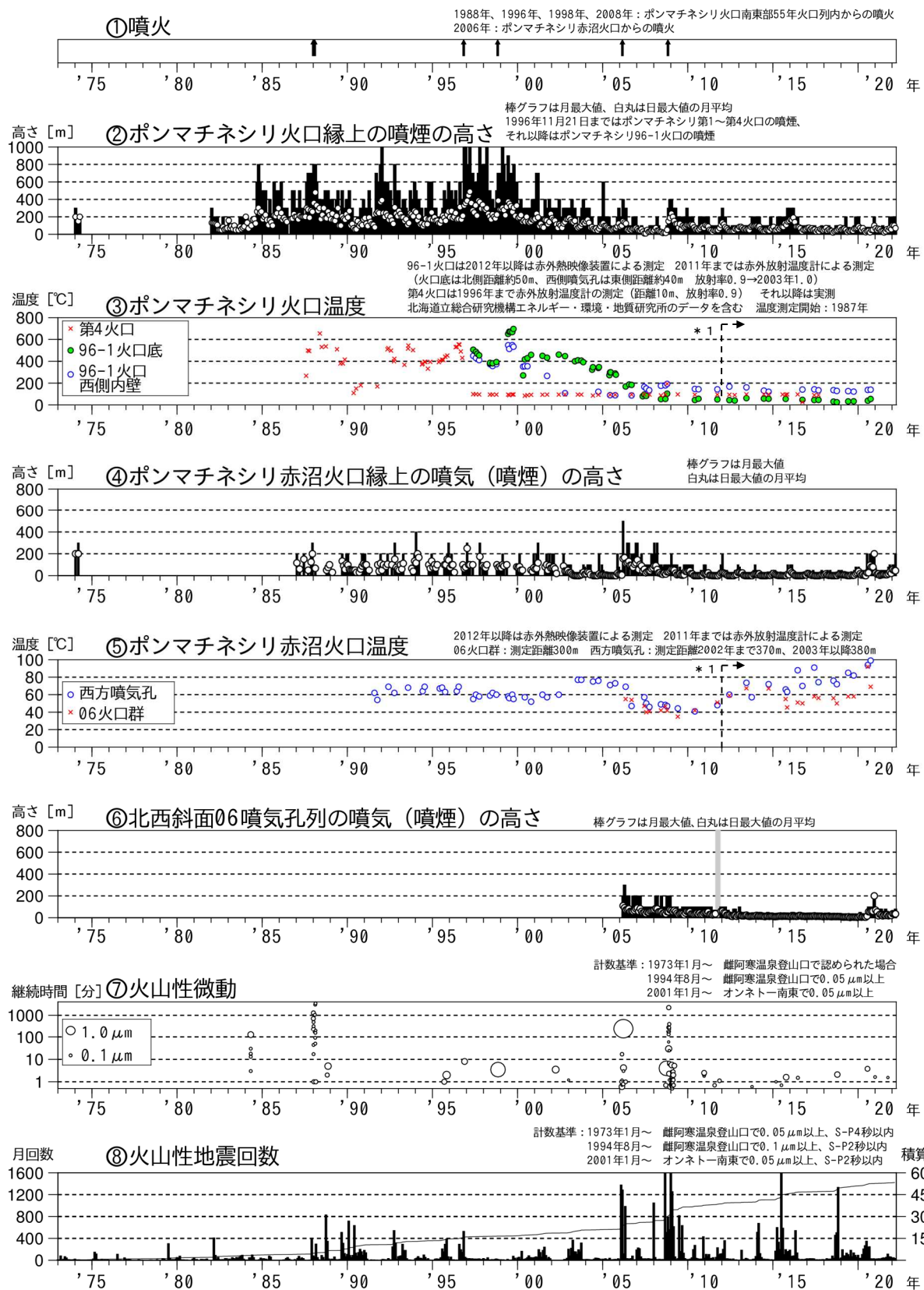


図1 雌阿寒岳 火山活動経過図（1973年1月～2022年3月）

グラフ⑥の灰色部分は機器障害による欠測を示します。

2012年（*1）から分解能の高い測定機器に変更したため、以前に比べて測定温度が高くなる傾向があります。

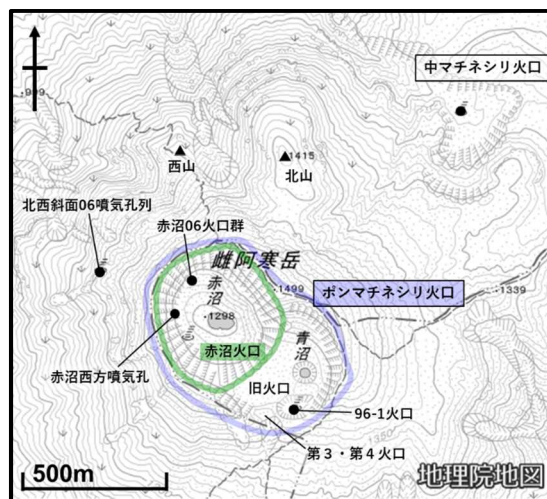


図2 雌阿寒岳 火口周辺図



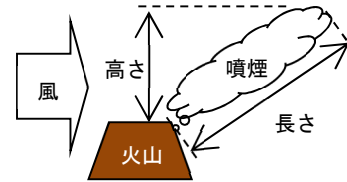
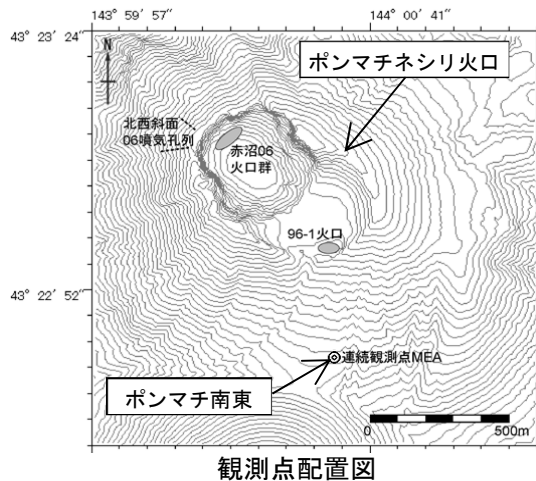
図3 雌阿寒岳 南東側から見た 96-1 火口及び中マチネシリ火口の状況

かみてしべつ
(上徹別監視カメラによる)



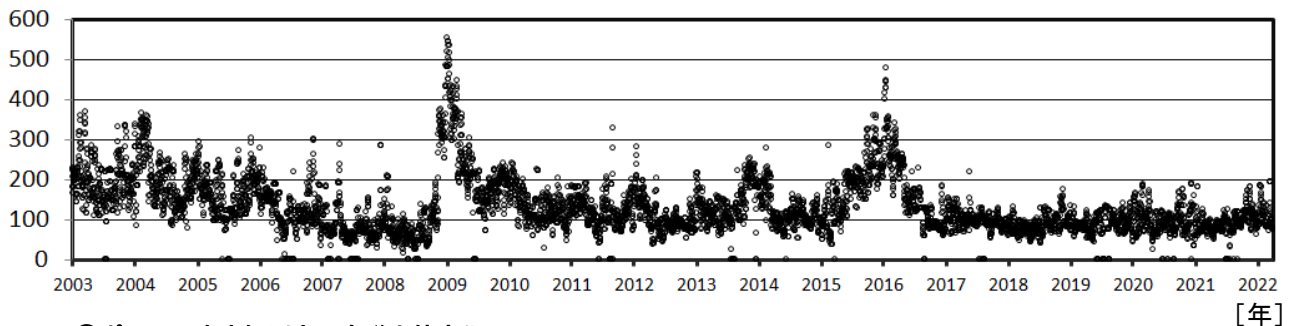
図4 雌阿寒岳 西側から見た赤沼火口及び北西斜面 06 噴気孔列の状況

(オンネット展望台（道）監視カメラによる)



噴煙の長さ
[m]

①ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の長さ（気温補正）の推移



②ポンマチ南東観測点の全磁力値変化

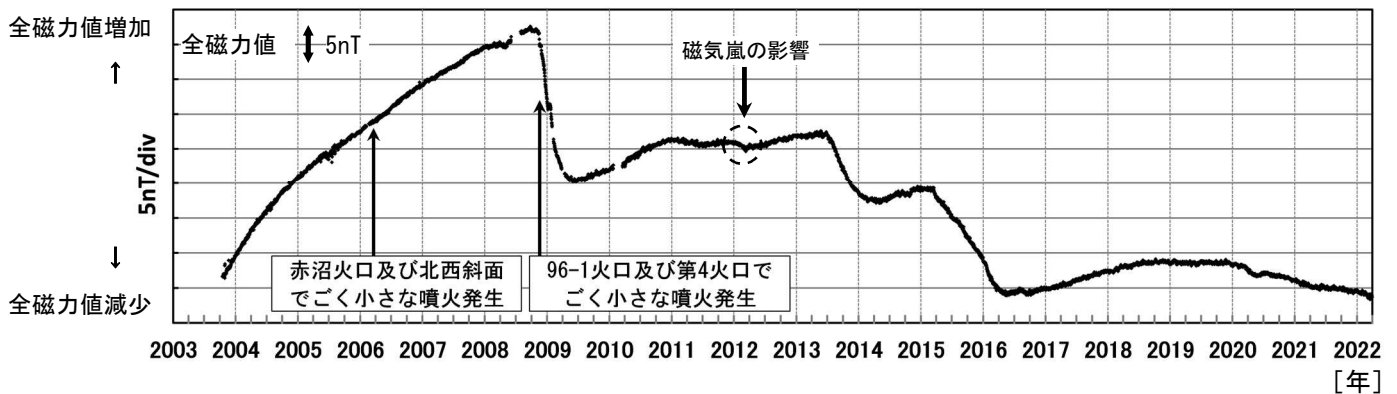


図5 雌阿寒岳 ポンマチネシリ96-1火口の噴煙の長さ と全磁力値の経過及び全磁力観測点配置図
(2003年～2022年3月)

- ①のグラフに示す噴煙の長さは気温の影響を受けることから（気温が低いと噴煙は長くなり、高いと短くなる傾向がある）、気温補正後の値をプロットしています。
- ②のグラフに示す全磁力値は、地磁気観測所女満別観測施設との全磁力値差をプロットしており（表示開始は2003年10月16日）、空白部分は欠測を示します。

- ・ 2016年5月以降、96-1火口の噴煙量は低下した状態が続いています。
- ・ ポンマチ南東の全磁力値は、2020年1月頃からわずかな減少傾向がみられていましたが、2021年6月頃からは概ね横ばいで推移しています。

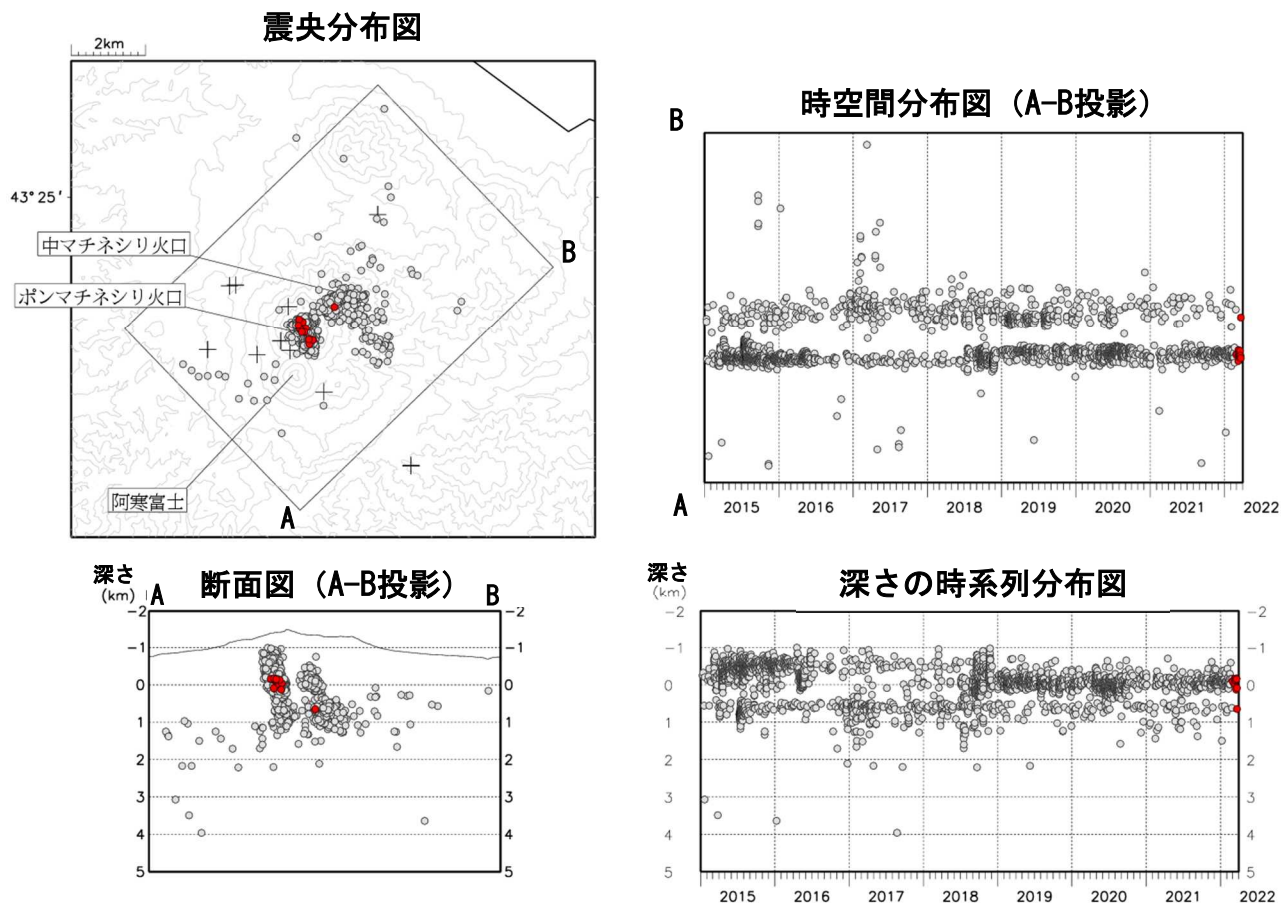
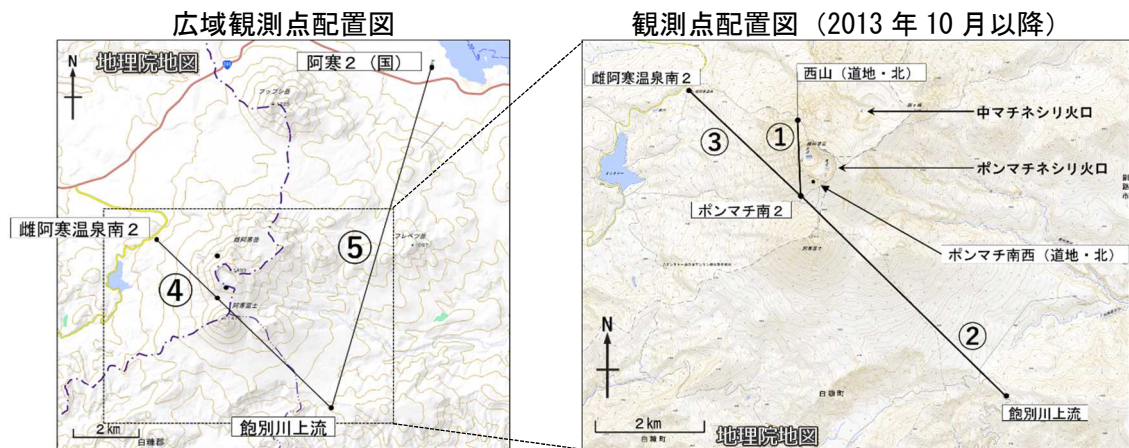
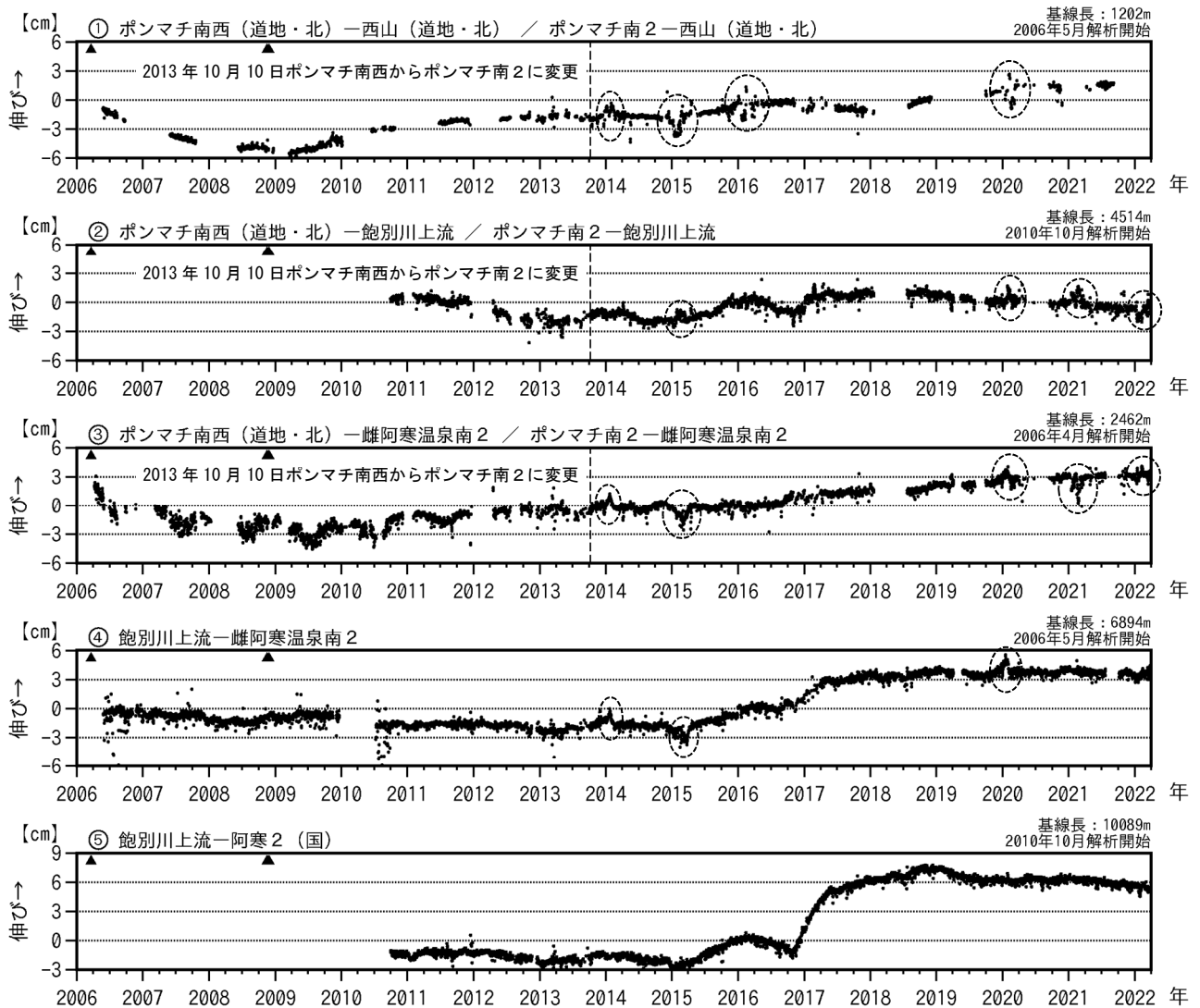


図6 雌阿寒岳 火山性地震の震源分布（2015年1月～2022年3月）

●印：2015年1月～2022年2月の震源、●印：2022年3月の震源、+印：地震観測点



（国）：国土地理院 （北）：北海道大学
（道地）：地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所

図7 雌阿寒岳 GNSS連続観測による基線長変化（2006年4月～2022年3月）及び観測点配置図

グラフ①～⑤は観測点配置図の基線①～⑤に対応しています。
▲はごく小規模な噴火の発生を示します。
グラフの空白部分は欠測を示します。
破線円内の変動は凍上や積雪の影響によるものと考えられます。
2010年10月及び2016年1月に解析方法を変更しています。

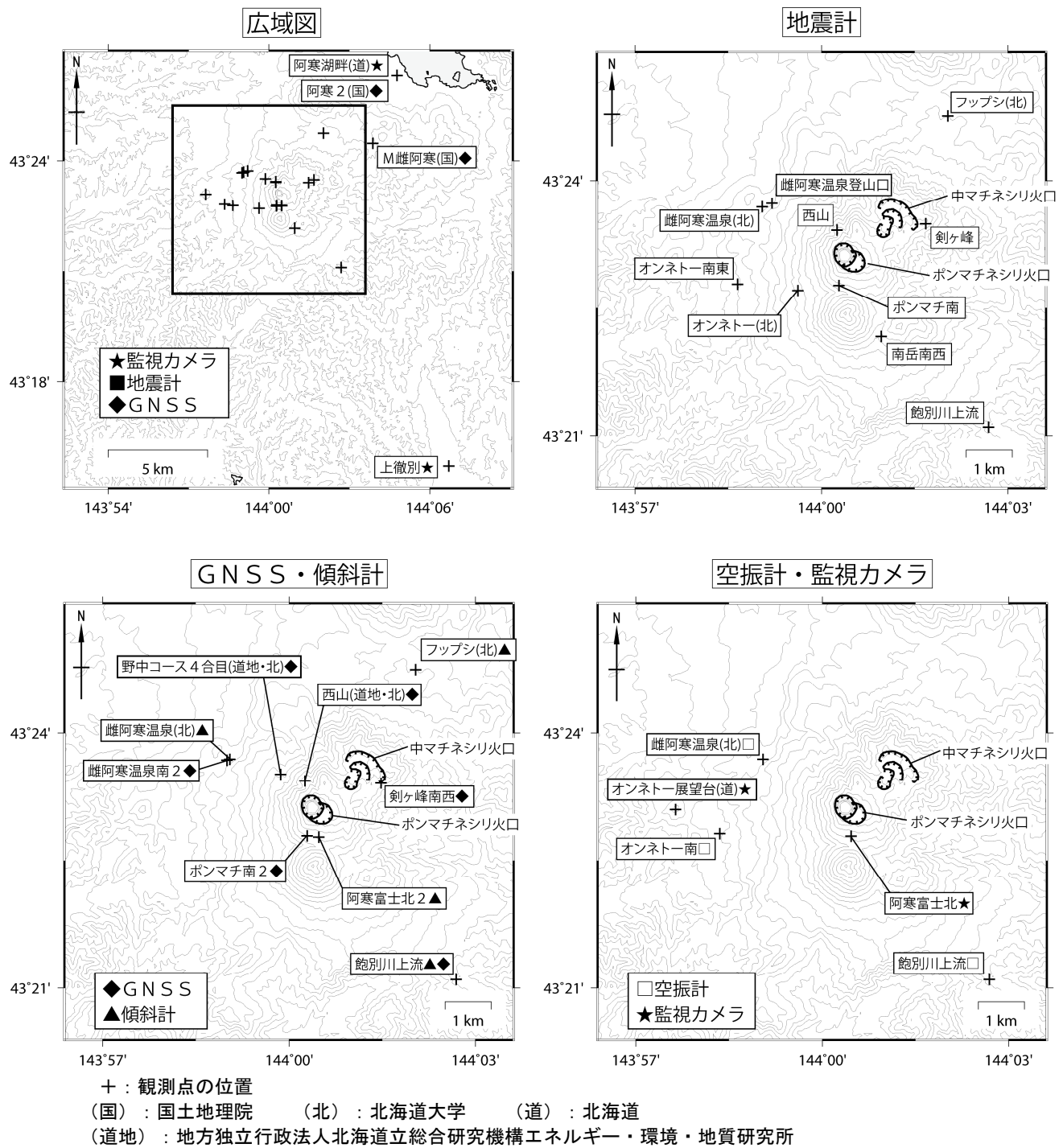


図8 雌阿寒岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で示した領域を拡大したものです。